

# 衆議院外務委員会ニュース

平成 29. 4. 28 第 193 回国会第 12 号

4 月 28 日（金）、第 12 回の委員会が開かれました。

## 1 原子力の平和的利用における協力のための日本国政府とインド共和国政府との間の協定の締結について承認を求めるの件（条約第 3 号）

- ・参考人から意見を聴取することに協議決定しました。
- ・参考人から意見を聴取し、質疑を行いました。

（参考人）京都大学大学院法学研究科教授

浅田 正彦君

長崎大学核兵器廃絶研究センター長・教授

鈴木 達治郎君

岐阜女子大学南アジア研究センター客員教授

福永 正明君

（質疑者及び主な質疑内容）

### 大野 敬太郎君（自民）

- ・2008年に「インドとの民生用原子力協力に関する声明」を原子力供給国グループ（NSG）がコンセンサスにより採択した経緯について浅田参考人に伺いたい。
- ・インド国内における国際原子力機関（IAEA）の保障措置の適用範囲が今後拡大される可能性について浅田参考人の所見を伺いたい。
- ・本協定第14条の規定により「理由のいかんを問わず」協定を終了させることが可能であるとの解釈について浅田参考人の見解を伺いたい。

### 小熊 慎司君（民進）

- ・本協定でウランの濃縮・再処理をインドに認めていることへの懸念について鈴木参考人の所見を伺いたい。
- ・本協定の締結によりインドを実質的に核不拡散条約（NPT）体制の枠内に引き入れることになるとする政府の見解について鈴木参考人の所見を伺いたい。
- ・米印原子力協定に基づく米国からの核燃料供給によりインドの国産ウランが全て軍事用に使用され得るとの、かつての懸念について浅田参考人の現在の所見を伺いたい。

### 浜地 雅一君（公明）

- ・インドにおける大気汚染及び電力需要に関する現状認識及びその展望について伺いたい。
- ・米印原子力協定に当初懸念を示していたものの、その後他の国々もインドと原子力協定を結ぶ中で、その懸念がどのように払拭されていったのか浅田参考人に伺いたい。
- ・ガイドライン改正に向けた動きを含むNSGにおける議論の現状について伺いたい。

### 笠井 亮君（共産）

- ・核実験が行われた際に協力を停止する旨の明文規定が本協定に置かれなかった理由について福永参考人に伺いたい。
- ・インド国内での本協定に係る議論の状況について福永参考人に伺いたい。
- ・本協定の締結がインドの核保有国としての地位を容認し、世界の核軍縮に逆行することにつながる可能性について鈴木参考人に伺いたい。

### 足立 康史君（維新）

- ・我が国政府が本協定締結に向けた交渉を開始した動機について各参考人の所見を伺いたい。
- ・福島第一原子力発電所事故が収束していない中で、原発輸出に活路を見いだす政府の姿勢に対する各参考人の所見を伺いたい。
- ・我が国が本協定14条の規定に基づきインドへの協力を停止することが実際に可能であるのか否かについて浅田参考人の所見を伺いたい。

### 玉城 デニー君（自由）

- ・本協定の締結がNPT未加盟かつ包括的核実験禁止条約（CTBT）未署名のインドに核兵器保有の権利を認める根拠となる懸念について各参考人の所見を伺いたい。
- ・本協定でインドに対し核物質等の濃縮や再処理の移転を認めたことにより他の国から同様の要求がなされる可能性があるか否かについて各参考人の所見を伺いたい。
- ・本協定14条に基づく協力停止等によりインド側事業者から我が国メーカーに損害賠償請求が行われた場合に、当該メーカーが賠償責任を負えるか否か疑問に感じるが、

各参考人の所見を伺いたい。